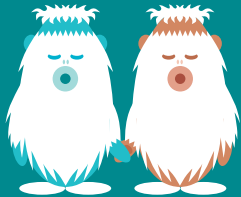




**Ultimate USB microphone
for professional recording**









この度はBlue Microphones社「Yeti - プロフェッショナル・マルチパターンUSBマイク」をご購入いただき、誠にありがとうございます。

YetiはBlue Microphones社独自のトリプル・カプセル・アレイを搭載し、あらゆるサウンドソースのレコーディングに柔軟に対応します。このカプセル・アレイのおかげで、通常ならば指向性の異なるマイクを複数用意しない限りなし得なかったマルチパターン・レコーディングを、Yeti 1本で実現できるのです。レコーディングできるマイクパターンは、ステレオ／単一指向性／双指向性／無指向性の4タイプになります。

またYetiは高品位A/Dコンバーターを搭載しているため、卓越したクオリティーでPC/Macに音声を取り込むことができます。その他にも、ゼロレイテンシー・モニタリングを実現する内蔵ヘッドフォン・アンプやヘッドフォン・レベル・コントロール、パターン切替スイッチ、インスタント・ミュート、マイク入力ゲイン・コントロールなど、快適なレコーディングに必要な不可欠なスペックを多彩に装備しています。Yetiのパフォーマンスの高さと信頼性は、Yetiが「世界初のTHX認定マイク」であることから自明と言えるでしょう。

Yetiを使用するために特別なドライバーのインストールは不要です。PC/Macに接続し、好きなレコーディング用ソフトウェアを起動するだけで、即座にレコーディングすることが可能です。

トリプル・カプセル・アレイ：3種類のコンデンサー・マイクカプセルを搭載し、幅広いオーディオ・ソースのレコーディングに対応します。

マルチ指向特性パターン切り替え：本体に装備されているパターン・セレクターで、簡単に4種類のマイク指向特性（ステレオ／単一指向／双指向／無指向）の切替が可能です。

マイクゲイン・コントロール：マイクの入力レベル（センシティビティ）を設定します。最初はセンター・ポジションで録音してみてください。もしデジタル・ノイズ等の歪みが発生する場合は、ツマミを半時計回りに回し、入力レベルを適切な位置まで下げましょう。入力レベルが低い場合は、ツマミを時計回りに回し、適切なレベルになるよう調整します。

BLUEロゴ：BLUEのロゴが配置されている面が正面になります。

スクリュー：スクリューを時計回りに回すことで、Yetiの角度を固定します。デスクスタンドから本体を外す場合は、両スクリューを取り外します。本体が落下しないよう充分気を付けてください。

ミュート・ボタン&ステータス・ライト：ミュート・ボタンが押され、ライトが点滅している時は、マイクからの出力がミュートされています。ミュートをOffにするには、再度ミュート・ボタンを押してください。

ヘッドフォン・レベル・コントロール：ヘッドフォンのボリューム・コントロールは、本体に装備されたノブより直接行えます。

ヘッドフォン端子：Yetiは、3.5mmヘッドフォン・ジャックを装備しています。レイテンシーなしに、マイク・レコーディングをモニターすることが可能です。またYetiに搭載されている高品位D/Aコンバーター及びヘッドフォン・アンプにより、コンピューター内のオーディオ・データをヘッドフォンでプレイバックすることも可能です。

USB接続：Yetiとコンピューターは、1本のUSBケーブルで接続します。mini USBコネクタをYeti本体に挿し、もう片方をコンピューターのUSB端子に接続します。Yetiのパフォーマンスを最大限引き出すためには、必ずコンピューターのパワードUSBポートに直接接続するようにしてください。USBハブ等の拡張器機に接続すると正常に動作しない場合がありますので、ご注意ください。

スタンダード・スレッド・マウント：Yetiをスタンダード・マイクスタンドにマウントしたい場合は、Yeti本体を付属のデスクスタンドから取り外して設置してください。デスクスタンドからの取り外し方法につきましては、P4「スクリュー」の項をご参照ください。

Yetiを製品箱から取り出したら、まず「Blue」のロゴとヘッドフォン・レベル・コントロールがあなたに面するように、マイク本体を180度回転させます。次に本体の両脇にあるスクリューを締め、マイク角度を固定します。

付属のUSBケーブルを使用し、コンピューターとYetiを接続します。コンピューター側は必ずパワードUSBポートに直接接続するようにし、USBハブ等の拡張器機を使用しないでください。

各OSでの使用方法につきましては、下記をご確認ください。

Windows Vista

1. 付属のUSBケーブルを使用し、Yetiとコンピューターを接続します。
2. Windowsの「スタート」メニューから、コントロールパネルを開きます。
3. コントロールパネル内「サウンド」を選択します。
4. 「録音」タブを開き、リストから「Yeti Stereo Microphone」を選択します。続いて「プロパティ」ボタンを選択し、表示される画面から「レベル（音量）」タブを開きます。ここでは算定的に80%くらいに設定しましょう。
※録音するオーディオレベルの大小によって、この項目は随時調整してください。

5. 「再生」タブを開き、リストから「Yeti Stereo Microphones」を選択します。続いてこの画面でPCのマスターボリュームを100%に設定しましょう。出力デバイスをYetiに指定することで、ヘッドホン・ボリュームをYetiに装備されているボリューム・コントロールノブで調整することが可能になります。

また同画面内の「マイク」とラベリングされフェーダーを左右に動かすことでマイクのモニタリング・ボリューム*も調整することが可能です。

★NOTE★

「マイクのモニタリング・ボリューム」と「マイクのゲイン・コントロール（インプット・ボリューム）」は異なります。「マイクのモニタリング・ボリューム」はコンピューターのメイン出力にどれだけマイクの音を送るかを設定します。「マイクのゲイン・コントロール（インプット・ボリューム）」はコンピューター内にどれだけマイクの音を送り込むか調整します。マイク入力部で歪み発生している場合は「マイクのゲイン・コントロール（インプット・ボリューム）」を適正值にまで調整してください。

Windows XP

1. 付属のUSBケーブルを使用し、Yetiとコンピューターを接続します。
2. Windowsの「スタート」メニューから、コントロールパネルを開きます。
3. コントロールパネル内の「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」を選択します。
4. 「オーディオ」タブを選択します。
5. 「音の再生」のリストから「Yeti Stereo Microphone」を選択します。
6. 「音の再生」の項にある「音量」をボタンを選択します。この画面内でマイクのモニタリング・ボリューム*を調整します。
マイク出力レベル調整用のフェーダーが表示されていない場合は、「詳細設定」を開き、調整します。

★NOTE★

「マイクのモニタリング・ボリューム」と「マイクのゲイン・コントロール（インプット・ボリューム）」は異なります。「マイクのモニタリング・ボリューム」はコンピューターのメイン出力にどれだけマイクの音を送るかを設定します。「マイクのゲイン・コントロール（インプット・ボリューム）」はコンピューター内にどれだけマイクの音を送り込むか調整します。マイク入力部で歪み発生している場合は「マイクのゲイン・コントロール（インプット・ボリューム）」を適正值にまで調整してください。

また同画面内の「マイク」とラベリングされフェーダーを左右に動かすことでマイクのモニタリング・ボリュームも調整することが可能です。

また同画面内からコンピューターのマスター・ボリュームを調整することもできます。マスター・ボリュームの設定は、まずは100%に設定されることをお勧めします。Yetiを出力デバイスに設定することで、ヘッドフォンのボリュームをYeti本体のボリュームノブで調整できるようになります。

6. 「録音」の項で、「Yeti Stereo Microphone」を選択します。
7. 同じ「録音」の項で、「音量」ボタンを選択します。表示されるページ内で、コンピューターの内部マイク・ゲイン（ボリューム）設定が行えます。まずは80%くらいの位置から始めてみましょう。録音するオーディオ・レベルの大小によって、設定を調整してみてください。

Macintosh OS X (10.4.11以上)

1. Yetiとコンピューターを付属のUSBケーブルを使用し、接続します。
2. アップルメニュー内「システム環境設定」を開きます。
3. 「サウンド」を選択します。
4. 「入力」タブから「Yeti Stereo Microphone」を選択します。

まずはスタート・ポイントとして、「入力音量」を80%くらいに設定します。録音するオーディオ・レベルの大小によって、随時入力音量を調整しましょう。

5. 「出力」タブにて、「Yeti Stereo Microphone」を選択します。
6. 表示されているページで、「出力音量」を100%に設定します。出力装置をYetiに設定することで、ヘッドフォン・ボリュームをYetiのヘッドフォン・ボリュームノブで調整いただくことが可能です。

以上でコンピューターの設定は完了です。Yetiが接続されていて、マイクのゲインノブが中心（12時の位置）に設定されていることを確認し、指向性パターンを選択します。さあ、レコーディング開始です！

レコーディングの方法に「正解」というものではありません。まずはマイクを使ってみましょう。いろいろと試していく内に、きっと望みのサウンドが録れるようになるはずです。

続くページでは、Yetiでレコーディングできる「モード（指向特性パターン）」の種類と、それらのモードを上手に使いこなすためのヒントを紹介します。

紹介する内容はあくまでも一つのガイドラインです。状況に応じてレコーディング方法をいろいろと試すことで、それぞれのパターンで得られるサウンド・キャラクターを知り、自分だけのユニークなサウンドを目指しましょう。

一目で分かる、レコーディング・モード表

12

パターン モード	パターン シンボル	収音ソース/ 方向	アプリケーション例			
ステレオ			ボーカル 	コーラス隊 	インストゥルメント 	
単一指向性			ポッドキャスト 	ボイスオーバー 	ボーカル 	インストゥルメント 

一目で分かる、レコーディング・モード表

13

パターン モード	パターン シンボル	収音ソース/ 方向	アプリケーション例		
無指向性			会議	フィールド	オーケストラ
					
双指向性			インタビュー	インストゥルメント	デュエット
					

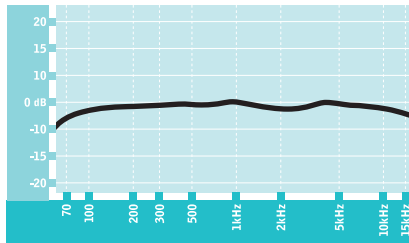
ステレオ

ステレオ・モードは、ステレオ音像を收音するのに最適なモードです。録音したい音源に対してYetiの正面（Blueのロゴ面）を向けます。楽器の種類や、收音したい空気感を考慮し、Yetiの設置場所を音源から数センチ～数メートルの範囲で調整してみてください。

音源の中心をセンタリングすることで、左右に均一のバランスで録音できます。音源をマイクの左右にズらすことで、音像自体を左右に傾かせることが可能です。もちろん、すべての音をなるべくセンターで録音し、ミックス時にパンニングで左右パンを調整しても良いでしょう。

L/Rいずれかのチャンネルのみ收音したい場合は、単一指向性、双指向性、もしくは無指向性モードに設定し、ソフトウェア上のパンニングをL、もしくはRにハードパンニングすると良いでしょう。

yeti | stereo 



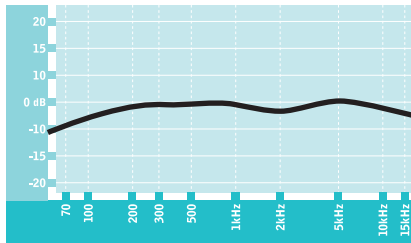
上図に示す周波数特性は、空間の音響特性や音源からの距離、インストゥルメントのチューニング、マイクケーブルリング等、録音環境によって大きく変化します。

単一指向性

単一指向性モードは、レコーディングで最も一般的に使用されるモードです。ボーカルやポッドキャスト、ナレーション、ボイスオーバーなどを録音する時は、単一指向性を選ぶことをお勧めします。単一指向性で録音すると、マイクの側面や背面から来る音は収音されないで、狙った音源のみにフォーカスすることができます。逆に他のモードに比べると空気感が少なくもなります。

単一指向性モードで録音する時は、音源がマイクの真正面にくるように調整することで、良い結果が得られます。

yeti | cardioid



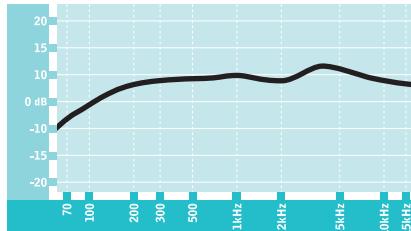
上図に示す周波数特性は、空間の音響特性や音源からの距離、インストゥルメントのチューニング、マイクケーブルリング等、録音環境によって大きく変化します。

無指向性

無指向性モードは、全方向から来る音を均一に収音するモードです。複数名のミュージシャンが一斉に演奏する場合や、部屋全体の会話、会議など、空間全体の音を録りたい場合に重宝するでしょう。全方向の音を収音するため音像バランスが安定しない場合があります。

無指向性モードでレコーディングする場合は、空間全体の中でもメインとなる音源を決めてから、その音源に対してマイクを正面に向けて録ってみると良いでしょう。

yeti | omni ○



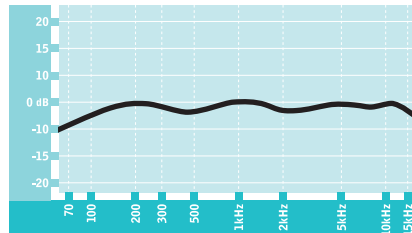
上図に示す周波数特性は、空間の音響特性や音源からの距離、インストゥルメントのチューニング、マイクケーブルリング等、録音環境によって大きく変化します。

双指向性

双指向性モードは、マイクの正面と背面の音のみを收音し、側面から来る音は排除します。インストゥルメント単体の音と空気感、1対1のインタビューなどを録るのに便利です。

音源をマイクの正面と背面に配置することで、マルチマイク・セッティングと同様の効果が得られます。

yeti | bidirectional ∞



上図に示す周波数特性は、空間の音響特性や音源からの距離、インストゥルメントのチューニング、マイクケーブルリング等、録音環境によって大きく変化します。

YETI - 技術仕様

パフォーマンス

消費電力：5V 150 mA

サンプルレート：48 kHz

ビットレート：16 bit

搭載カプセル：Blue独自14mmコンデンサー・カプセル x 3種類

指向特性：単一指向性、双指向性、無指向性、ステレオ

周波数特性：20 Hz - 20 kHz

感度：4.5mV/Pa (1 kHz)

最大SPL：120 dB (THD：0.5% 1 kHz)

ヘッドフォン・アンプ部

インピーダンス：>16 Ohms

出力パワー (RMS)：130 mW

THD：0.009%

周波数特性：15 Hz - 22 kHz

S/N比：100 dB

仕様

寸法 (デスクスタンド装着時)：12cm x 12.5cm x 29.5cm

重量 (マイク本体)：550g

重量 (デスクスタンドのみ)：1kg

基本動作環境

Windows：

Windows 7, Windows Vista, XP Home Edition, XP Professional

USB 1.1/2.0

64 MB RAM以上

Macintosh：

OS X 10.4.11以上

USB 1.1/2.0

64 MB RAM以上

製品保証／免責事項

Blue Microphonesは、Blue Microphones正規ディーラーにて購入されたハードウェア製品につき、正常な使用における状況下で発生した不具合に対して、製品の購入日より、2年間の無償保証期間を設けております。無償保証期間内でも、製品に改造や操作ミス、過度な消耗等が認められた場合や、Blue Microphonesが認定したサービスセンター以外の場所でサービスを受けたものに関しては、保証外となりますので、ご注意ください。本保証には、事前に合意がない限り、サービスを受けるための運送費や交通費は含まれません。Blue Microphonesは製品改良のため、予告なく製品の仕様や外観を変更する権利を有します。また製品仕様に変更が行われた場合、変更前に製造された製品に対して、これらの変更を反映／適用する義務を負いません。製品の保証や免責事項に関するお問い合わせは、Blue Microphonesまでお問い合わせください。

© 2009 Blue Microphones. All Rights Reserved. Blue Microphones, Blue Oval, YetiはBlue Microphonesの登録商標です。MacintoshはApple, Inc.の登録商標です。Windows, Windows 7, Windows Vista, Windows XPはMicrosoft, Inc.の登録商標です。THX、及びTHXロゴはTHX, Ltd.の登録商標です。製品改良のため、仕様及び外観は予告なく変更となる場合があります。



Microphones

www.bluemic.jp